

令和6年2月21日 社会的養育施設職員等合同研修会

社会的養護経験者と考える アフターケアの課題と展望 ～CONET PROJECTの実践を通して～



CONET(コネット)

CONET PROJECTの概要

CONET PROJECTの実践報告

アフターケアの課題と展望

CONET PROJECTの概要



「大分県の児童養護施設や里親家庭を巣立った若者
＝ケアリーバー
たちが相互につながれる仕組みができてほしい」

(大分県の児童養護施設を退所した若者の声)

「オトナがデザインした制度（サポート）は
若者にとって十分に届いているのだろうか」

「若者たちが望むサポートのデザインとは？」

(NPO法人おおいた子ども支援ネットの声)

CONET PROJECT 誕生秘話

「もっと若者の声を聴こう」「ケアリーバーとのかかわりを持とう」
というチャレンジを掲げ、若者たちと法人が手を結び…
協同体制による“**CONET PROJECT**”がスタート！



若者たちが相互交流できる
場所として「**拠点**」を設置！

◀ **CONET STATION**

※開所日：火曜日・金曜日13:00～18:00
第2・4土曜日10:00～18:00

CONET PROJECT の目的と方針

目的

ケアリーバーのつながりと
ピアサポートの構築

方針

若者たち自身が相互交流の
やりかたを考えていく！！



CONET MEMBERS



内田 理美

- ◆ 児童養護施設・里親家庭経験
- ◆ コミュニケーション能力◎
- ◆ 難しい話×
- ◆ エビが大好き 



川村 涼太郎

- ◆ 児童養護施設経験
- ◆ むじゃきな性格 S↑D↓
- ◆ 特技は「瞬時に大人モード」
- ◆ 幼く見えてもチームの安定剤



後藤 拓也

- ◆ 児童養護施設経験
- ◆ 現役理系大学院生で技術力担当
- ◆ クセの強い言動でメンバーを困らせるが、それも魅力。鋭いツッコミが持ち前の武器で、どんな空

CONET PROJECTの実践報告





のんびり過ごす

ケアリーバー同士 の相互交流

交流のかたちは
さまざま！



ゆったりトーク



寄付品のお渡し



みんなでオレンジリボン運動



大学進学のお祝い



選挙に行こう！

ケアリーバー同士 の相互交流

ともに経験！



初詣でお参り



引越しのお手伝い



みんなで夏祭りへ！



一緒にお店にGo!

ケアリーバー同士 の相互交流



県内施設の卒園生との交流



社会的養護等経験者全国交流会に参加



県外ケアリーバーとの交流



児童養護施設の子どもたちにSSTを計3回実施！

1回目と2回目は弁護士さんとのコラボイベントです！



CONETの歩み



3回目は交流会!

みんなの笑顔が見れてうれしかったです☆



CONETの歩み



施設職員の方が見学に



新聞にたびたび掲載



県外の方も見学に



県内すべての児童養護施設を訪問



ラジオに出演して広報！



県外団体とオンライン研修

パンフレット や 活動報告書 も作成！



Instagramのフォローありがとうございます！



火曜・金曜 更新！



たくさんの方がCONETに興味をもってくれました！

- 日本財団
 - 内閣官房子ども家庭庁設立準備室 内閣参事官
 - 東京都世田谷区児童相談支援課 課長ほか
 - 大分県副知事
 - 大分県福祉保健部 部長ほか
 - 大分県子ども・家庭支援課 課長ほか
 - 大分県中央児童相談所 所長ほか
 - 大分県弁護士会
 - 大分大学福祉健康科学部
 - 大分県の児童養護施設、関係機関
 - 大分県の地域の方
 - 株式会社Cont
 - 株式会社ファイン
 - 産前産後ケアサロン助産師
 - 一般社団法人若葉会 代表
 - 阿南農園、グリーンファーム、日浦農園
 - 妙瑞寺&地域の方々
 - 大分合同新聞社記者
 - TOSテレビ大分記者
- など
- 県外の方
 - 全国児童家庭支援センター協議会 会長
 - 早稲田大学社会的養育研究所
 - 東京都立大学准教授
 - 北海道医療大学助教
 - 株式会社三菱UFJリサーチ&コンサルティング
 - CVV (Children's Views & Voices) 副代表
 - NPO法人Giving Tree ピアカウンセラー/NPO法人IFCA 副理事長
 - NPO法人バブリング 代表
 - 認定NPO法人かものはしプロジェクト
 - 認定NPO法人ブリッジフォースマイル かたるベースくまもと
 - 認定NPO法人スチューデント・サポート・フェイス 代表
 - NPO法人そーさぽ旭川&旭川市
 - NPO法人丸亀街づくり研究所 アフターケア事業所わっかっか
 - 社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団
 - NHK放送局ディレクター
 - 西日本新聞社記者
- など

- 雑談から始まる関係づくり
- 市役所への同行
- 郵便局への同行
- 病院への同行
- 保健所への同行
- お店への同行
- 学習のお手伝い
- 書類作成のお手伝い
- 引越しのお手伝い
- 社会経験（初詣、選挙等）
- 食料品や衣料品等のお渡し
- 県外の方との交流
- インケア児童との交流
- SSTや交流会にコミット
- 児童と一緒に農業体験
- 児童養護施設等への訪問
- 研修・セミナー講師
- ソーシャルアクション参加
- 地域のイベントに参加
- 新聞掲載、ラジオ出演
- パンフレット、報告書作成
- Instagramの開設

私たちの思い

- ◆ 「ザ・大人」には話しにくくても、ちょっと身近に感じる人になら会える・話せる、つながりたいという若者の背中を押したい。**つながりの選択肢**を広げたい。
 - ◆ 助けてくれる「ザ・大人」が周りにたくさんいることも伝えていきたい。
-
- ◆ サポートしてあげている／もらっているではなく、お互いに助け合う。お互いに**WinWin**で孤独を少しでも軽くできる関係になれば。
 - ◆ 社会的養護の経験があるからこそ得ることもたくさんあると知ってもらいたい。

アフターケアの課題と展望



全体会 アフターケアの課題と展望

CONETを通して感じた「アフターケアの課題」

- ▶ ケアリーバーにとって厳しい設計が社会の至るところにみられるが（保証人問題など）、そもそも世間的に「社会的養護」があまり知られておらず、アフターケアの制度・サービスがあまり整っていない。
- ▶ 施設や里親、相談所などの社会資源に頼りにくい（頼っていいのか分からない、打ち明けてどのように思われるかを気にしてしまう、話す気にならない、社会資源を知らない…など）。
- ▶ 措置解除の前後に「こういう時は頼ってね」といろいろな大人から言われるけど、当時は理解できていなかったり、困った時には時間が経っていて忘れていたりしている。覚えていても、時間が経っていると頼りづらい。

全体会 アフターケアの課題と展望

CONETを通して考える「アフターケアの展望」

- ▶ CONETのような当事者性のある社会資源のメリット＝似た境遇だからこそ、関係づくりがしやすい。
- ▶ 暗いことばかりじゃなく、気軽に寄ってもらえるということが伝わるようにインスタなどで発信するようにしている。
- ▶ ケアリーバーだからこそ支援情報を知ったり資源とつながったりしやすい面もある。
- ▶ インケア児童との関わりをもつことによって、将来的にケアリーバーとのつながりの構築が促進されていくことを願っている。

※「全体会」版はここまでです 

ご清聴ありがとうございました！

CONET



分科会

アフターケアの課題と展望



分科会

プログラム

- ▶ 導入 5分
- ▶ グループワーク (1) 15分
- ▶ グループワーク (2) 15分
- ▶ 各グループから発表 15分
- ▶ 社会的養護経験者の声 20分

- ▶ 助言・まとめ
- ▶ 終了

分科会 導入

▶この分科会では「社会的養護経験者等(※1)に対するアフターケア(※2)」について考えます。

- ※1 児童養護施設、里親家庭、一時保護所等を巣立った人や、もうすぐ巣立つ人、途中で離れた人などを含める。
- ※2 措置解除後のケアだけでなく、リービングケアや家庭復帰後の支援等も含める。

▶グループに分かれましょう。

- ▶必要に応じて、グループ内で自己紹介（所属、役職、名前）をしてください。
- ▶グループごとに発表者を1名決めてください。（記録者による記録をもとに発表）
- ▶グループごとに記録者を1名決めてください。

グループワーク（1）

アフターケアの現状と理想

- ① 支援者または組織として考える「アフターケアの現状（課題）」を出し合ってください。
- ② 実現可能性は問わず、現状（課題）からみた「理想のアフターケア」を出し合ってください。

グループワーク（2）

理想を実現するための方策

理想を叶えるための（課題を解決するための）
「**方策**」を出し合ってください。

ポイント

- ▶ 支援者自身・組織の振り返り
 - ▶ 他機関・他職種、国や地域への期待 など
- いろいろあると思いますが、さまざまな「主語」で出してみてください。

各グループから発表

社会的養護経験者は どのように思っているか

分科会 CONETメンバーが思うアフターケアの現状と理想と方策

①アフターケアを担う職員の配置について

現状・課題

- ▶（児童養護施設）卒園生は年々増えていく一方で、職業指導員・自立支援担当職員は1名の配置（他役職との兼任を含む）状況のなかで、アフターケアを担う職員の負担が大きくなったり、手が回らず十分な支援ができなかったりするリスクがあるのではないかな。
- ▶（児童相談所）措置解除者には関わりにくいいため、措置解除した児童の実態把握やその支援をおこなう他機関との連携がしにくい。

理想・方策

- ▶ 各施設の職業指導員・自立支援担当職員をさらに配置、施設職員数の十分な確保
- ▶ 施設間などを行き来する「ヘルパー制度」（仮称）の創設（直接処遇orアフターケア）
- ▶ 児童相談所にアフターケアを担う（≠アフターケア連携担当）職員を配置する

分科会 CONETメンバーが思うアフターケアの現状と理想と方策

② ソーシャルスキルトレーニングについて

現状・課題

- ▶ 施設入所児童に対して開催されているSSTについて、里子是对象外なのか。里子へのSSTを開催する場合は、引率などの面で課題があると思われる。

理想・方策

- ▶ 里親・FHの児童についても、措置解除後の生活に向けたSSTを充実させてほしい（施設との合同・非合同は問わない）。里親家庭に訪問したり、里子との関係性が構築されている人が開催や企画などをできるとよい。
- ▶ 実行に要する人員や引率対応者を確保するために、里親支援専門相談員やフォスタリング機関、アフターケア機関、先ほど提案した「ヘルパー制度」やボランティアも活用する。

分科会 CONETメンバーが思うアフターケアの現状と理想と方策

③他機関・他職種連結 ～「連携」の前に「連結」を～

現状・課題

- ▶ 他機関・他職種が何をやっているのかよく知らない、どこまで踏み込んでいいのかよくわからない、積極的に交わりにくい等の現状があるのではないか。
- ▶ 「大人－大人」（機関－機関）間に壁や垣根があると支援が恣意的になったり、大人（機関）に情報が入ってこなかったりする状態になってしまう。その結果、「大人－児童」間にも距離ができる＝児童に社会資源等の有用な情報が行き届かず、困った時に周囲に頼りにくい状態になることも考えられる。

理想・方策

- ▶ 他機関・他職種がケースを動かすときにだけ集まるのではなく、さまざまなイベントを企画して日常的に交流する機会をもってほしい。
- ▶ 研修の数は多いと見受けるが、見学会や情報交換会などの交流系を増やす。

分科会 CONETメンバーが思うアフターケアの現状と理想と方策

④ アフターケアを享受しやすい仕組みづくり

現状・課題

- ▶ 出身施設や里親家庭に行ってもいいのか、あの職員はいるのか。話や相談があるけど措置解除になったし……。直接的な連絡・訪問はしにくいけど、連絡を仲介してくれたり、一緒に訪問してくれたりする人がいれば。
- ▶ 食料品や衣服などの寄付が組織に紐づいていると、その組織とつながりがないケアリーバーはその恩恵を受けにくい。

理想・方策

- ▶ 「社会的養護ネットワーク」（仮称）の創設 ←こども家庭ソーシャルワーカーにも期待
 - ▶ 施設、里親、児相、アフターケア機関等ではなく、独立した専門員または組織団体が担う？
- ▶ 「フードバンク等サービス本人登録制度」（仮称）の創設
 - ▶ 措置解除前から登録でき、困った時に自宅から自分で申請して寄付を受け取ることができる。

分科会 「大分県施設等退所者の実態に関する調査研究」結果からみえる示唆

施設等からのサポートに対する意見（アンケート調査）

- ▶ 「困ったことはたくさんあったけど、どういう時に頼ったらいいのかわからないので、進学・就職する前のこどもたちには特に助けの求め方を教えてあげて欲しい」
- ▶ 「現在施設とはギクシャクし連絡を取り合えていないが、以前はよく帰省し話を聞いてもらった。ギクシャクならずに「家族」でいたかった」

措置解除後の生活について（インタビュー調査）

- ▶ 「当時の担当さんが出て（＝私が退所して）すぐに辞めて、辞めたのに連絡を取るのはいかがかと思って連絡を取ってなくて」
- ▶ 「担当さんがいなくなったので、助けてと思ったとしても、もう向こうとしても多分どうしようもない」
- ▶ （妊娠、出産、子育て）「自分が経験したことがないから不安」（＝家庭での子育てを見てこれなかったという自分自身の育ちに起因する不安）

※一部修文

分科会 「大分県施設等退所者の実態に関する調査研究」結果からみえる示唆

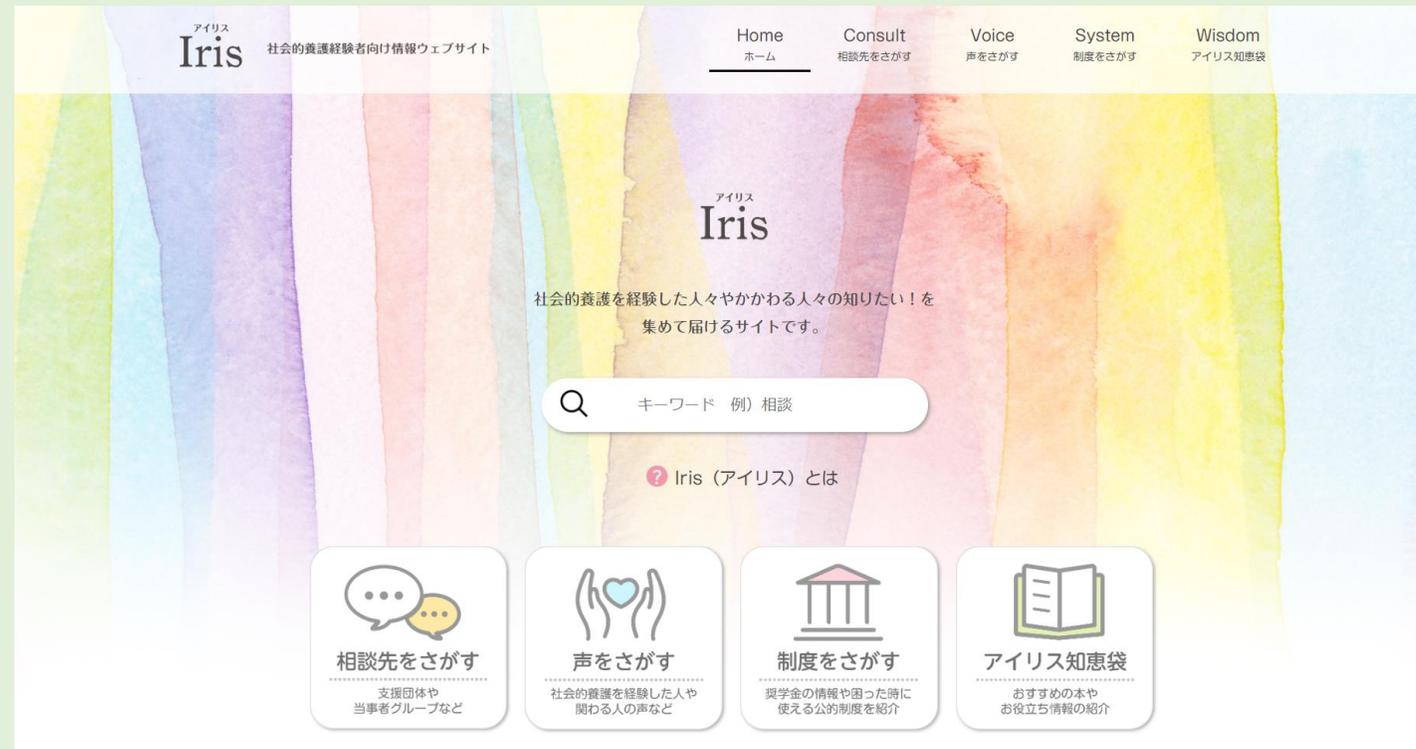
措置解除後に必要なサポート・支援について（インタビュー調査）

- ▶ 「年に1回ぐらいは施設のほうから呼ばれて招待されて御飯食べて、皆と話す機会はあるがたい」
- ▶ 「何も関わっていない職員に相談するのは無理」
- ▶ （措置解除後に進学や資格取得を志した際）「大学までどういうふうな手順で進んでいったらいいかとか、相談できたらありがたかった」「制度とかは全然知らなくて」
- ▶ 奨学金の返済について経済的な支援、医療費の補助がほしい。
- ▶ 安く入居でき、仕事も安定して続けられるようになるまで住める場所。
- ▶ 「（措置解除者等の親の集いについて）ああ、それは行きたいですね」
- ▶ 「施設を出た子同士でもっと連絡を密に取ればいいのに。気軽に連絡が取れるようなものがあったらいいのではないかな」
- ▶ 「同じ経験がある分ちょっとは人見知りせずしゃべれるかな」

※一部修文

分科会 全国の社会的養護経験者はどう思っているか

- ▶ 社会的養護経験者向け情報ウェブサイト「Iris(アイリス)」
- ▶ <https://irisconnect.jp/>
- ▶ 社会的養護等経験者全国交流会 → 経験者たちの声から生まれた。



県外の卒園生などにぜひ情報提供をお願いします。

助言・まとめ

分科会ありがとうございました！

CONET

